

平成27年3月1日

# アルプスだより

同窓会アルプス会会報

信州大学医学部保健学科看護学専攻  
信州大学医療技術短期大学部看護学科

第20号



会長あいさつ	2
地域保健推進センターの設置に関連した事業について	2
会計報告	4
講演会の報告	6
新任教員のご挨拶	7
退職教員のご挨拶	8
活躍する同窓生	9
同級会報告	11
同窓会会則	12
第20回アルプス会総会報告	14
同窓会事務局よりお知らせ	15
思い出の写真★北校舎の今昔	16
編集後記	16



信州大学  
SHINSHU UNIVERSITY

## 会長あいさつ

10回生（医短） 青柳 美恵子  
（信州大学医学部附属病院看護師長）



会員の皆様におかれましては、ますますご隆盛のことと拝察いたします。

昨年このあいさつを書いているお正月頃は穏やかな天候であり、書き出しもそれをお伝えするものでした。しかし、その後長野県は記録的な大雪、南木曾土石流、御嶽山噴火、北部地震と大きな災害が続きました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。また被災地や後方支援の医療機関等において、活動をされた看護職の方々もいらっしやっただけでは対応しきれない特別な状況。だからこそ日常の中で意図的に訓練していくことの重要性を実感しました。

さて平成26年はアルプス会設立20周年という節目の年となり、7月に開催した総会・講演会では講師に女優の原千晶先生をお迎えし、ご自身のがん

闘病の話をしていただきました。がんと診断されたショック、早期からきちんと治療を継続していればという後悔、だからこそ予防！と力強く話される姿に、体験されたからこそその熱い思いをひしひしと感じ、看護師としてまず「ともにいたい」と初心にかえる気持ちになりました。

今年は21年目になります。母校の増改築も北校舎から中校舎へと進んでいます。また、文部科学省／課題解決型高度医療人材養成プログラム事業として、保健学科と附属病院が連携して行う「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」が採択され始まります。さまざまなニーズにこたえられる多様な看護職が、これからは更に求められていきます。同窓会の活動が、社会に貢献できる医療人の育成を担う母校の発展に寄与できるよう、今後ともご支援をよろしく願いいたします。

時節柄ご自愛のほど願ひあげます。

## 地域保健推進センターの設置に関連した事業について

北校舎が耐震改修され、その東隣りに地域保健推進センター（3階建）が設立されました。

地域保健推進センターは、医学部保健学科を中心として、医学科、附属病院、バイオメディカル研究所などの学内連携や、さまざまな地域連携、社会連携の拠点として、また関連機関・地域住民等との連携に基づいた地域保健活動の推進を目指して設立されました。

その関連事業について、お知らせします。



▲地域保健推進センター

## 保健学科看護学専攻と病院看護部との連携で、 「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」が開始します

事業推進プロジェクトリーダー **坂口 けさみ**  
(小児・母性看護学講座教授)

急激な少子高齢化という社会の中で、施設中心の医療から、住み慣れた生活の場において必要な医療や看護サービスが受けられ、安心してその人らしい生活を実現できる社会が強く求められています。しかしそこに関わる看護師数は不足しており、さらに患者や家族のニーズは多様化してきています。

そこで今回信州大学が中心となって、在宅療養支援に携わるリーダーとしての看護師を育成する事業を開始することになりました。これは文部科学省からの補助金を得て行われる事業で、平成26年度から開始し、平成30年度末まで行われる5年間の事業です。事業名は、「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」です。この事業では、一般的な在宅

療養支援のみならず、リーダーとして難病やがん、重症児在宅に特化した看護ケア内容を充実させるとともに、災害時への在宅療養支援について考えていきます。また施設から地域・在宅へと、切れ目のない医療や看護を提供するための連携システムを構築していきます。

今回の事業を通して、在宅療養に向けた退院支援を含む実践力の高い在宅療養支援リーダーを育成・増員するとともに、長野県内の在宅療養支援に関わる基盤整備と質の向上を目指します。詳細は本事業ホームページ <http://在宅療養支援リーダー.jp> をご覧ください。



▲センター講義室



▲センターフロア案内



HPアドレス ▶ <http://在宅療養支援リーダー.jp>

## 平成25年度会計報告

自:H25.4.1 至:H26.3.31

### <運営資金収支>

(単位:円)

科目	金額	備考
歳入額	2,696,485	
歳出額	1,524,698	
差引残高(A)	1,171,787	普通預金:1,170,763円、手持ち金:1,024円

### <運営資金収入の部>

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
前年度繰越金	1,296,182	1,296,182	0	普通預金:1,263,756円+手持ち金:32,426円
新規会員入会費	1,620,000	1,400,000	-220,000	新規会員70名分
預金利子	300	303	3	
その他	0	0	0	
計	2,916,482	2,696,485	-219,997	

### <運営資金支出の部>

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
第19回総会開催費	63,000	65,654	2,654	
講師謝礼	50,000	50,000	0	
花代	3,000	3,000	0	
茶菓子代	5,000	4,306	-694	茶菓子代(講師・参加者)
雑費	5,000	8,348	3,348	託児アルバイト・物品、講演会物品
会報費	560,000	511,591	-48,409	
会報製作費	550,000	511,591	-38,409	会報印刷:2,500部、発送部数:2,110通
雑費	10,000	0	-10,000	
第19回総会準備費	140,000	146,920	6,920	
案内印刷・郵送代	140,000	143,870	3,870	印刷数:2,200枚、発送数:2,029通
雑費	0	3,050	3,050	短大6回生分はがき送料
会議費	232,000	130,916	-101,084	
役員会	24,000	17,000	-7,000	5/2、11/13、1/10開催分日当
理事会	150,000	65,000	-85,000	5/11、1/25開催分日当
編集会議	8,000	3,000	-5,000	11/13、1/10開催分日当
通信費	20,000	20,720	720	理事会案内・各回生名簿の郵送
雑費	30,000	25,196	-4,804	理事会お茶代、役員会弁当代
在学生支援費	330,000	340,810	10,810	
入学・卒業記念品	310,000	329,810	19,810	卒業記念名入りはさみ200本
オープンキャンパス活動支援	20,000	11,000	-9,000	図書カード11名分
桐の木同窓会への同窓会費支払	190,000	190,000	0	1万円×助産選択学生19人
事務局運営費	30,000	30,000	0	
同級会支援費	120,000	80,000	-40,000	短大2・5・6・27回生へ
地域保健推進センター設置寄付金	1,000,000	0	-1,000,000	
その他	50,000	28,807	-21,193	プリンタインク、定年退職教員への花代
計	2,715,000	1,524,698	-1,190,302	

### <特別会計>

(単位:円)

科目	金額	備考
定期預金	7,543,192	100万円×6口+150万円×1口+利息
計(B)	7,543,192	

### 【平成26年3月31日現在の総資金】

(単位:円)

(A) + (B)	8,714,979
-----------	-----------

## 会計監査報告書

会計全般について監査した結果、証拠書類および帳簿が適正に管理され、  
収支にあやまりのないことを確認いたしました。

平成26年5月22日 会計監査 早川 維子 印

## 平成26年度予算

自: H26. 4. 1 至: H27. 3. 31

### ＜収入の部＞

(単位:円)

科 目	平成25年度決算	平成26年度予算	増 減	備 考
前年度繰越金	1,296,182	1,171,787	- 124,395	普通預金: 1,170,763円、手持ち金: 1,024円
新規会員入会費	1,400,000	1,400,000	0	新規会員70名見込 (実際の学生数: 新入生70名、編入生10名、大学院生3名)
預金利子	303	300	- 3	
その他	0	0	0	
計	2,696,485	2,572,087	- 124,398	

### ＜支出の部＞

(単位:円)

科 目	平成25年度決算	平成26年度予算	増 減	備 考
第20回総会開催費	65,654	518,000	452,346	
講師謝礼	50,000	500,000	450,000	
花代	3,000	3,000	0	
茶菓子代(講師・参加者)	4,306	5,000	694	
雑費	8,348	10,000	1,652	講演依頼状送付代、託児ボランティアアルバイト代・保険等
会報費	511,591	560,000	48,409	
会報製作費・送料	511,591	550,000	38,409	16ページ、2,600部見込み、封筒・宛名印刷・封入作業・送料含む
雑費	0	10,000	10,000	前年度会報発送代(再発送、退職教員分)
第20回総会準備費	146,920	150,000	3,080	総会案内はがき印刷・郵送代
会議費	130,916	167,000	36,084	
役員会	17,000	24,000	7,000	6人×4回×1,000円
理事会	65,000	80,000	15,000	40人×2回×1,000円
編集会議	3,000	8,000	5,000	4人×2回×1,000円
通信費	20,720	25,000	4,280	理事会案内郵送、欠席理事に名簿郵送
雑費	25,196	30,000	4,804	理事会お茶代、会議時弁当代等
在学生支援費	340,810	20,000	- 320,810	
入学・卒業記念品	329,810	0	- 329,810	
オープンキャンパス活動支援	11,000	20,000	9,000	図書カード1,000円×20名
桐の木同窓会へ同窓会費支払	190,000	200,000	10,000	1万円×助産師コース選択学生20人
事務局運営費	30,000	30,000	0	
同級会支援費	80,000	120,000	40,000	
地域保健推進センター設置寄付金	0	0	0	
その他	28,807	60,000	31,193	同窓会封筒印刷、PCウイルスソフト代等
予備費	0	747,087	747,087	
計	1,524,698	2,572,087	1,047,389	

### 特別会計

#### ＜収入の部＞

(単位:円)

科 目	平成25年度決算	平成26年度予算	増 減	備 考
定期預金(元本金額)	7,540,290	7,543,192	0	100万円×6口+150万円×1口
預金利子	2,902	2,000	- 902	
計	7,543,192	7,545,192	2,000	

#### ＜支出の部＞

(単位:円)

科 目	平成25年度決算	平成26年度予算	増 減	備 考
地域保健推進センター設置寄付金	0	1,000,000	1,000,000	
計	0	1,000,000	1,000,000	

## 同窓会総会 講演会の報告

### 『がんとのお出会い、自分らしくふたたび生きる』

講師：女優 原 千晶 さん



アルプス会創立20周年にあたる今年度は、女優の原千晶さんをお招きして、『がんとのお出会い、自分らしくふたたび生きる』と題して、講演していただきました。

時に涙しながらも、凛とした姿で熱く語られた講演の内容を、印象深かった言葉を中心に、ご紹介します。

19歳で芸能界デビューし、活躍されていた原さんですが、学童期から、内分泌系の病気を抱えており、体調の波をこらえながら、仕事を続けていたそうです。

30歳を目前に、将来のこと(仕事?結婚?)に悩み、体調不良もあり、一時休職されました。

31歳の時、今までにない腹部の激痛で病院受診したところ、子宮頸部の腫瘍が見つかり、円錐切除術を受けました。2週間後の病理結果から、突然のがん告知と、「今度は、おなかを切って子宮を取ったほうがいい。」という、更なる医師の言葉に、原さんは絶句したそうです。5日間の手術入院で、“悪いところを取ってしまえば、自分の中では、もう終わったことだったのに…”と、考えていた原さんにとって、この時の衝撃は、計り知れません。

医師による告知後、原さんは、結果的には子宮を取る手術はしない選択をされましたが、そこに至るまでの心境を、「振り子の中で、気持ちが動く」と表現されました。

気持ちが揺らぐ要因として、興味深かったのは、原さんを取り巻く、世代間での考え方の違いでした。原さんと同世代の友人は、「取ったから大丈夫なのでは? できたら、また取ればいいのでは?」と言い、親世代(両親)は、手術を懇願したそうです。

原さん自身は、“手術してもしなくても、命が助かるかどうかは、神様しか分からない。”

また、“結婚はできたとしても、子宮を取ったら、子供は産めない。そういう未来は想像できない。”と考え、手術を見送り、今後、定期受診する約束を医師と交わし、仕事復帰し、普段の生活に戻りました。



しかし手術後、症状が軽快した原さんは、「のど元過ぎれば熱さ忘れる」感覚で、日々の生活を送る中、徐々に定期受診に向かう足が遠のいてしまったそうです。その5年後、がんの再発に見舞われました。

“自分はがんだった”ことが頭から離れなかった原さんは、内心では、5年経過のカウントダウンを続けていたそうです。きっと、不安と、祈るような思いで、過ごされていたことでしょう。

当時35歳、子宮体部 類内膜腺がん Ⅲ期(リンパ節転移あり)が判明し、この時の診察医の対応と、「あなた、命に係わる病気にかかっているんですよ。」という言葉から、病状の深刻さを感じ取ったそうです。

まもなく、広汎性子宮全摘出術を受け、術後の化学療法が始まりました。

この2度目の手術時は、原さんには結婚相手が居り、もう、自分だけの問題にはしていられない現状があったそうです。

「子供の産めない人生を、自分だけでなく、夫とその家族にも背負わせてしまったことが、一番悔いの残ることであり、辛いこと」と、原さんは、涙を溜めて話されました。ご主人と、その御両親の、原さんを想う気持ちは、辛い闘病の中で、大きな支えになっていました。

この後、原さんは、子宮の喪失感が芽生え、同じ体験をした女性の声を聴いてみたい、という思いから、患者会『よつばの会』を立ち上げました。

原さんは、同年代の会員と交流し、闘病中の会員との別れ(がん病死)に触れて、残していく家族への思いとがんに対する向き合い方を考えさせられたそうです。

2度にわたるがんの罹患、手術、闘病の辛さ。同じような思いや経験を、多くの女性にしてはほしくない。大切な家族も巻き込んでしまう。その思いから、がんの予防活動への参加、講演、アロマセラピー教室などを行なっているそうです。

そして、子宮頸部は唯一、医師が直接視診できる部位だからこそ、予防活動の中では、がん検診の大切さを訴えることに、主眼を置かれています。

最後に、聴講後の質疑応答から。

**Q:仕事を前向きに頑張れる原動力は何ですか?**

**A:**リンパ浮腫や、腹部のリンパ嚢胞による頻尿があり、夏は特に辛いのが、減ってきています。術後は体重が10kg増加…もう、元の体は手に入らない。だから、少しでも良くなった箇所を、日々、自分で褒めるようにしています。そして、周りの健常者と同じように行動できるよう、生活全般に気を付け、体の声に耳を傾けるようにもしています。

**Q:医療に患者が求めることはどんなことですか?**

**A:**短い診療時間の中で、体の具合を診ることも大切

だけれど、プラスα、その人なりの私生活について聴いてくれたりすると嬉しいですね。患者はみんな、主治医のことを慕っています。やはり、人対人、温かい言葉がけが嬉しいです。

今日の講演会は、医療従事者が主たる聴講者ということで、原さんは、「患者の立場に立って、また女性として、私のお話を参考にしていただけたら嬉しいです。」と、言い添えて講演を始められました。

私にとって、まさに、患者様の生の声、本音でした。病と向き合う自分自身よりも、取り巻く家族を想う気持ちを話す場面では、原さんだけでなく、会場も涙しました。

ひとりの女性として、家族の一員として、医療従事者として、大切にすべきことを教えていただいた時間でした。

## 新任教員のご挨拶

### 9ヶ月を振り返って

基礎看護学 助教 山口 大輔



信州大学に着任して早いのもう9ヶ月が経ちます。松本に住み、信州大学で仕事をするのに少しずつ慣れてきたのではないかと実感しております。私が松本で暮らすようになってからは、毎年のように大雪が降り、雪かきの腕も上達致しました。

信州大学での日々は新しい発見で満ち溢れており、充実した日々を送らせていただいております。実習で

は、学生の丁寧な患者さんへの対応に、私自身も学び続け、謙虚な姿勢で看護を探究しなければならないと改めて実感致しました。また、困っている時は、必ず誰かが手を差し伸べてくれる（臨床はもっとギスギスしていたような…）ことに、信州大学で教員生活の第一歩を踏み出し、教育や研究に携われることをとても幸せに感じております。

今後も、教育や研究などに努力を怠らず、邁進していきたいと思っております。同窓会の皆さまから色々なお話をお伺いできたらとても嬉しいです。今後とも、よろしくお願ひ致します。

### 同窓会という絆を通じて

小児・母性看護学 助手 米山 美希



本年度より保健学科看護学専攻の教員として着任いたしました、米山美希です。新しい生活に慣れることに精いっぱい毎日でしたが、気づけば早10か月が過ぎようとしていました。時の流れは本当に早いものだと感じております。

この10か月は、新たに多くの学びを得られた日々でした。様々な実習施設へ伺うことで、長野県の医療は多

くの職種の方々に支えられているのだということを改めて感じる事ができました。中でも特に印象的だったのは、県内各地で多くの同窓生が活躍しているということでした。保健学科で共に学んだ同窓生に久しぶりに出会い、昔話に花を咲かせることも少なくありません。このように同じ学び舎で過ごした仲間たちが地域の第一線で活躍しているということは心強く、同窓会でのつながりをきっかけに地域での連携の輪も広がっていくのではないかと感じております。

これからも同窓生の皆様との交流を深めるとともに、同窓会の益々の発展のため少しでもお役に立てますよう努めてまいりたいと思っております。

## 保健学科で1年を過ごして

小児・母性看護学 教授 平林 優子



信州大学医学部保健学科で過ごして1年近く経ちました。教職員の皆様に導いていただきながら周囲がやっと見えてきたところ。単科大学で過ごした私にとっては新しい経験がたくさん

ありました。総合大学で幸せだなと思うのはメールを開くだけで毎日入ってくる多くの学びの機会や情報です。私自身の関心事である、障害や病気を持つ子どもたちについても視野を広げる必要性を感じます。地域の専門職の方々とつながりつつあり、広がりを楽しんでいます。また看護学専攻の先生方はもちろんですが、看護専攻以外の先生方と教育に携わることで自分の役割や専門性を見直す機会になりました。現在、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」のGP

(Good Practice)として採択された、「実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業」に参加させていただき、実践家の方々と一緒に作り上げる、在宅療養支援リーダーの姿が見えてくるのを楽しみにしています。

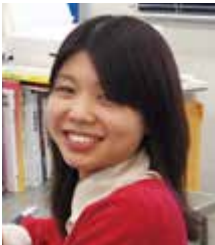
教育の面では、私が担当する科目において、この1年でいろいろチャレンジさせていただきました。学生さんが自ら参加し学べる教授方法をさらに充実させていきたいと思います(予算がもっとあったらいいな)。信州大学の学生さんは、様々な方向から手厚くサポートされて、安心の環境の中で過ごしているなという印象を持ちました。学生の方には、大学時代にこそできる、自主性を育み、社会的な活動の経験や、関心事を追求する機会を多く持ってほしいなと思います。大学の行事なども、柔軟な考えを持つ学生さんの企画運営の機会が増えてもよいのではと感じています。

今後信州大学を出発点にして経験する新しい出会いを楽しみにしながら、教育・研究・実践をしていきたいと思っています。

## 退任教員のご挨拶

### 3年間を振り返って

成人・老年看護学 助教 山邊 えり



信州大学では3年間勤めさせていただきました。今、振り返って感じることは、たくさんの初めての出会いがあったことです。まず、初めての寒冷地。スタッドレスタイヤを履いたことのない私が、通勤

では三才山を通るため、逸早くタイヤ交換をすることになりました。そして初めての教員。諸先生方、事務の

方、病院職員の方、そして学生。多くの方々との出会いがあり、全ての出会いに感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんの心が温かいのは、冬の寒さを乗り越える一つの術なのでしょう。退職と言っても、この3年間の出会いと経験を胸に、また前に進んでいきたいと思っております。これまで転々としてきた住まいも、信州で落ち着くことになりましたので、今後の皆様の更なるご活躍を近くでお祈り申し上げます。

これまで本当にありがとうございました。そしてまたどこかでお会いできると信じて、今後ともよろしくお願いたします。

### 3.11の夜

成人・老年看護学 准教授 牛田 貴子

8年間お世話になりました。最も強く印象に残るのは、東日本大震災の直後です。ちょうど2年生の担任をしていました。旅行や帰省などで被災した学生がいるかもしれないと考え、すぐに安否を確認しました。「地下鉄階段に座っています」「人がたくさんいて動けない」「線路沿いに歩いています」という帰宅困難の学生、「家族と連絡が取れず心配」という関東圏出身の学生など様々な状況が入ってきました。なかなか安否確認がとれな

い学生も十数人いて、一晩がとても長く息苦しかったです。

ちょうどこの頃、家族看護という雑誌の「退院支援」の特集編集委員をしていました。震災は依頼原稿の回収直前に発生しました。次々にメディアから流れる情報に圧倒され、自分の無力さや言葉に表現できないモヤモヤから抜け出せず、編集業務は手につかず無為に過ごしました。ガソリンは不足し、計画停電で列車が運休したことにより、山梨の自宅からしばらくは通勤できなくなりました。時間が止まってしまった感覚のなかでの、何ともいえない不安や焦燥。あれから4年が経過します。



## 大学を退職するにあたって

成人・老年看護学 教授 寺田 克



この4月から県立須坂病院に赴任することになりました。大学を退職するにあたり、御礼を兼ねご挨拶申し上げます。

皆様のご支援のもと、これまで大学で様々なことをさせてい

ただきましたが、保健学科教員としての11年間には、入試委員長や看護学専攻主任をはじめ、平成23年4月からの3年間は学科長を務めさせていただきました。

この間、同窓会の皆様には、平成24年度から始まった保健学科校舎の新棟建築（「地域保健推進センター」設置事業）と耐震改修・機能改善事業計画の遂行にあたり、特に多大なるご支援をいただきました。文科省と大学本部より、同窓会からの支援を

取り付けることが本事業採択の重要な要素のひとつであるとの指導の中で、平成24年7月14日開催のアルプス会理事会・同総会において、本事業計画の説明をさせていただき、基金管理組織の設置等にご賛同いただいたことは、つい先日のことのように思い出されます。この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

おかげさまで、平成26年度末をもって建物に関する事業は一区切りとなりますが、「地域保健推進センター」の活動には、アルプス会会員の皆様に、知識や技術面で参画していただくことが不可欠であろうと思っております。

私の大学での勤務はおよそ28年間になります。在任中様々な機会を与えていただき、ご指導をいただきましたことに、あらためて深く感謝申し上げますとともに皆様のご健康と貴会の益々のご発展を祈念いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 活躍する同窓生

### 満足してもらえる 研修の企画をめざして

長野県看護協会 等々力 菜美  
(医短 7回生)



私は、長野県看護協会教育部で看護職の継続学習を担当しています。

看護協会は、看護職の職能団体として「人々の健康な生活に寄与」するため、研修事業を

通して看護の質向上をめざし、社会貢献をしています。

私の主な仕事は、担当する研修事業の予算作成や研修会の企画、運営、評価です。プロデューサー的な役割もありますが、頭を悩ませるのが、満足（役立つ・楽しかった）してもらえる研修プログラムの企画です。

企画の際に役立っているのが、臨床や教育の現場で働いた経験や卒後教育を受けた機会だと思いま

す。私が医療短大を卒業してから、既に30年が経っています。

短大の3年間はサークル活動に精進し、何とか卒業して長野県がん検診救急センターに就職しました。不器用で物覚えが悪いので仕事を覚えるのに必死で、数年経った頃には一緒に入った同級生は次々と寿退職していました。看護師寮の友人が大学の通信で学んでいて、私も何か看護について勉強したいけど（そんな所はないと思っていた）と言ったら、紹介してくれたのが、厚生省看護研修研究センターで、運よく1年間遊学する機会が得られました。都心で駒沢公園の向かいにあった研修センターは、全国から研修生が集まり、伊藤暁子センター長の理念に基づき、先進的な看護教育がなされ、著名な先生の講義や活発な議論、演習など貴重な体験ができました。看護教員養成課程の担任の紹介で国立（病院機構）の看護学校に勤めることになりました。

新人教員としてゼロからのスタートとなり、仕事を覚えるまでの数年間はハードな毎日でした。専任教員の仕事は、看護師の頃と違って、チーム（医師

や看護師等)での活動ではなく、担当するエリアを一人で責任をもって行うものでした。

その後、家庭の事情もあり他の看護学校に移って、小林順子先生(短大の恩師)と一緒に働くことになりました。専任教員として自転車操業のような10年が経ち能力不足を感じていた頃、次の転機として長野県看護大学大学院で、2年間学生生活を送ることができました。当時の看大は、見藤隆子学長の理念のもと素晴らしい環境が整っていて、看護教育学専攻では、池田紀子先生、見藤先生、アン・デー

ビス先生、多くの先生や友人との出会いと支援を受けることができました。

看護協会への採用に際して、塩野入和子会長から、長野県の看護職の継続教育で尽力してほしいと言われました。

社会の変化やニーズに合わせて看護教育もこの20年位の間大きく変わってきています。今後も看護職の皆様に満足して頂けるような研修プログラムを企画していきたいと思っています。

## 難病相談支援員の活動を通じて思うこと

長野県難病相談・支援センター 信大病院 両角 由里  
(医短 15回生)



長野県難病相談・支援センターは、平成19年6月信州大学医学部附属病院が長野県より委託を受け開設しました。私は、立ち上げ準備から現在に至るまでの7年間を難病相談支援員として務めています。

難病相談・支援センター事業につきましては、あまりなじみのない方もいらっしゃると思いますので、こちらの紙面をお借りして、簡単にご紹介します。

当センターは、難病に関する医療・生活相談、患者会等への活動支援、講演会・研修会の開催、就労支援などを行っています。これらの活動を通じて、県内の医療機関、保健福祉事務所、市町村、信州大学医学部附属病院難病診療センター(同事務所内)、長野県難病医療連絡協議会(患者団体)、労働機関などの方々と情報交換や課題の共有といった連携を図っています。また、地域との関わりとして、保健福祉事務所や患者会が主催する難病相談会や患者家族交流会などに出向き、相談対応しています。

相談員は、現在1名体制にあり、全県の相談対応にあたっています。相談支援員の仕事は、表立つことなく、相談者が自分自身で気持ちを整理できるよ

うな支援や、地域主体の取り組みに繋がるような支援の“きっかけ作り”といった草の根的な支援活動です。困ったことが生じた場合や難病支援の問題点や課題などについては、県の保健・疾病対策課担当者や信大病院難病診療センタースタッフに報告し、助言や指導を頂き、課題の取り組みに繋いでいます。

これまで私は、臨床や訪問看護、保健師等の仕事に約16年間携わり、その約半分は、難病に纏わっていたことに気付きます。そして、これまでの様々な経験と人脈が、私自身を支えてくださったことに感謝しています。

最後になりますが、私が難病支援に携わり感じることは、「人との出会いが、人生を大きく変える」ということです。このことから、一期一会の精神で不安を抱え困っている相談者には、誠意をもって対応し、気軽に相談したい(できる)人になり得るよう、今後も努めたいと思います。



## 同級会報告

アルプス会総会日に合わせて同級会を行った学年に、同級会支援費が支給されています。同級会に参加できなかった方のためにも、その様子を伝えるために、同級会報告の会誌掲載を支給条件としています。今年度は3学年が行いました。その報告と写真をご覧ください。

### + 医短 5回生

5回連続開催です。9回生の会に出席するはずの小児看護担当の武井先生に少しだけお越しいただきました。先生は、学生と担当患児様をセットで覚えておられ、記憶力の良さにビックリでした。あやかりたいものです。(平井)



### + 医短 9回生

平成26年7月12日、アクアボーンにて、3年ぶりの同級会。武井先生をかこみ、〇〇年を経て、学生にもどって盛り上がりました。次期の理事も選出できました。

#### 【参加者】

笹尾、金井、松井、岩下、岡田、鬼熊、飯島、黒岩、鎌田、高橋、宮坂、下岡、島崎、松田、松林、平賀、本谷、小林、石田、矢部、井澤 (21名もいるので、順不同です。)

### + 医短 11回生

卒業後、初めての同級会であったと思います。それぞれの歩みを語り合い、とても懐かしく楽しい時間でした。皆、明るく元気で、看護を通して生き生きと輝いていました。

#### 【参加者】(旧姓)

上段左より、阿部、武、小林、長畦  
下段左より、神戸、久保田、木原、下島、勝山、笠原



## 同窓会会則

### 信州大学医療技術短期大学部・信州大学医学部保健学科看護学専攻同窓会 アルプス会 会則

#### 第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医療技術短期大学部・信州大学医学部保健学科看護学専攻同窓会「アルプス会」（以下「本会」という）と称する。
- 第2条 本会は信州大学医学部保健学科同窓会の看護学専攻分科会として位置づけられる。
- 第3条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号信州大学医学部保健学科看護学専攻内に置く。
- 第4条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員の親睦および研修に必要な事項
  - 二 母校の発展に関する事項
  - 三 その他必要と認められる事項

#### 第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
    - イ 信州大学医療技術短期大学部看護学科の卒業生
    - ロ 信州大学医学部保健学科看護学専攻（以下「本専攻」という）の在学学生および卒業生
    - ハ 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程（看護学分野）および後期課程（看護領域）（以下「本大学院」という）の在学学生および修了生
  - 二 特別会員
    - イ 本専攻教員
    - ロ 本専攻元教員
    - ハ 信州大学医療技術短期大学部看護学科元教員
    - ニ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。

- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員のうち信州大学医療技術短期大学部卒業生は会費として5,000円、信州大学医学部保健学科看護学専攻の在学学生および卒業生、信州大学大学院医学系研究科博士前期課程（看護学分野）の在学学生および修了生、後期課程（看護領域）の在学学生および修了生は会費として2万円を納入するものとする。すでに会費を納入している本会の会員が3年次編入および大学院に進学した場合は、2万円の納入は免除される。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

#### 第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
  - 二 副会長 1名
  - 三 幹事 若干名
  - 四 会計 1名
  - 五 書記 1名
  - 六 理事
    - イ 医療技術短期大学部および医学部保健学科看護学専攻卒業生；各回生2名
    - ロ 医学系研究科博士前期課程（看護学分野）および後期課程（看護領域）修了生；各回生1名
    - ハ 保健学科看護学専攻在学学生；8名（各学年2名）
    - ニ 医学系研究科博士前期課程（看護学分野）在学学生；1名
    - ホ 医学系研究科博士後期課程（看護領域）在学学生；1名
  - 七 会計監査 1名

- 第11条 役員は、次の職務を行う。
- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
  - 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
  - 三 幹事は事務局において本会の実務にあたる。
  - 四 会計は本会の会計を司り、総会において会計報告を行う。
  - 五 書記は庶務記録を司る。
  - 六 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
  - 七 会計監査は会計監査を行う。

- 第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。
- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
  - 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
  - 三 幹事は、会長が委嘱する。
  - 四 理事は、正会員の中から選出し委嘱する。
  - 五 会計は、総会において正会員の中から選出し委嘱する。
  - 六 会計監査は、総会において正会員の中から選出し委嘱する。
  - 七 書記は正会員の中から選出し委嘱する。

- 第13条 役員任期は、2年とする。ただし、在学学生理事の任期は1年とする。再任は妨げない。
- 2 補欠による役員任期は、前任者の残任期間とする。
  - 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

#### 第4章 顧問

- 第14条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

#### 第5章 会議

- 第15条 総会は、原則として毎年1回開催し次の事項を審議決定する。
- 一 事業および決算報告
  - 二 事業計画および予算
  - 三 会則の制定および改廃

- 四 役員を選出
  - 五 顧問の推挙
  - 六 その他の必要事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第16条 会長は必要と認めるとき、臨時総会を開催することができる。
- 第17条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第18条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第19条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第20条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第21条 総会は、議事録を作成しこれを保存する。
- 第22条 理事会は、会長、副会長、幹事、会計、書記、理事、会計監査によって組織する。
- 第23条 理事会は、会長が必要と認めるとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第24条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
- 第25条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第26条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。
- 第27条 役員会は、会長、副会長、幹事、会計、書記によって組織する。
- 第28条 会長は役員会を招集し、必要事項について話し合うことができる。

#### 第6章 会計

- 第29条 本会の経理は、会費および寄付金その他の収入をもって充てる。
- 第30条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

#### 附 則

- この会則は、平成7年5月13日から施行する。
- この会則は、平成18年7月29日から施行する。
- この会則は、平成19年7月14日から施行する。
- この会則は、平成21年7月11日から施行する。
- この会則は、平成22年7月10日から施行する。

## アルプス会会計細則

- 1 同窓会費
  - (1) 信州大学医療技術短期大学部卒業生は終身会費として5,000円
  - (2) 信州大学医学部保健学科看護学専攻在校生および卒業生は終身会費として2万円。保健学科在学中あるいは卒業後に保健学科同窓会に納入した保健学科同窓会費6万円より看護学専攻分科会費として2万円が納入される。
  - (3) 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程（看護学分野）の在學生および修了生、後期課程（看護領域）の在學生および修了生は終身会費として2万円。前期課程および後期課程に在学中あるいは修了後に保健学科同窓会に納入した保健学科同窓会費4万円より看護学専攻分科会費として2万円が納入される。すでに会費を納入している本会の会員は2万円の納入は免除される。
  - (4) 信州大学医学部保健学科看護学専攻生が助産学を専攻した場合は、同窓会費2万円のうち1万円を桐の木会の会費として納入する。
  - (5) 特別会員は会費の徴収をしない。
- 2 代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。
- 3 会計は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。
- 4 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

### 附 則

- この細則は、平成18年7月29日から施行する。  
 この細則は、平成19年7月14日から施行する。  
 この細則は、平成21年7月11日から施行する。

## アルプス会会計申し合わせ事項

- 1 理事会、役員会を開催した際には、役員に対して日当1,000円を支給する。
  - 2 事務局の運営費として年3万円を支給する。
  - 3 会則第5条三に基づき、災害義援金等の社会貢献を行う。義援金等の寄付を行う基準は日本看護協会が呼びかけたものとし、役員会の審議を経て寄付を行うものとする。
  - 4 正会員ならびに特別会員に関わる弔事の対応については役員会で検討し、香典あるいは弔電をもって5,000円を超えない範囲で対応する。
  - 5 総会当日に各回生において同級会を開催する場合は、その支援費として、10名以上の参加につき、2万円を支給する。この申請については事前に事務局宛てに連絡する。なお、支給については同窓会当日の総会会場とし、同級会を開催したことを事務局に報告する。
- この申し合わせは、平成18年7月29日から施行する。  
 この申し合わせは、平成22年7月10日から施行する。  
 この申し合わせは、平成24年7月14日から施行する。

## 第20回 アルプス会総会報告

以下の事項が審議され、承認されました。

### 平成25年度事業報告

- 1) 総 会：第19回総会 平成25年7月13日（土）13：30～16：00  
 場 所／信州大学医学部保健学科北校舎1階311講義室  
 平成24年度事業報告、平成24年度会計報告、平成25年度事業計画案、平成25年度予算案  
 講演会／『ストレスはコントロールできる』  
 講 師／加藤史子先生（メンタルトレーナー）  
 出席者／70名（理事・役員51名、同窓生（在學生含む）18名、特別会員0名、同窓生以外1名）
- 2) 会報の編集・発行：平成26年3月「アルプスだより」第19号発行  
 配布部数：2,378部（郵送2,029通、在學生（平成24年度卒業生含）317部、特別会員（退職教員含）32部）

## 3) 在校生への貢献

- ・平成25年度卒業生(81名)に対して学習支援グッズ(名入ナースはさみ)の寄贈
- ・平成26年度入学生(83名)に対して学習支援グッズ(名入シャープペンシル)の寄贈
- ・オープンキャンパス活動支援

## 4) 同窓会員への貢献: 同窓会当日に開催される同級会支援費…4件

## 5) 社会貢献: 平成25年度はなし

## 6) 理事会: 第1回…平成25年1月25日、第2回…5月31日

## 7) 役員会: 第1回…平成25年11月13日、第2回…平成26年1月10日、第3回…4月30日、第4回…5月22日

## 8) 編集会議: 第1回…平成25年11月13日、第2回…平成26年1月10日

## 9) その他: 川上先生最終講義花束贈呈

**平成25年度会計報告について** (4ページをご参照ください)**平成26年度事業計画(案)について**

## 1) 総会: 第20回総会 平成26年7月12日(土) (受付/13:00)

13:30~14:30 (総会)

14:45~16:00 (講演会)

16:00~ 施設見学(改築・増築棟、実習室)

場 所/保健学科地域保健推進センター 多目的講義室

講演会/『がんと出会い、自分らしくふたたび生きる』

講 師/原 千晶(女優)

## 2) 会報の編集・発行: 平成27年2月頃 「アルプスだより」 第20号発行

## 3) 在校生への貢献

- ・平成26年度卒業生に対して学習支援グッズ(名入りはさみ)の寄贈
- ・平成27年度入学生に対して学習支援グッズ(名入りシャープペンシル)の寄贈
- ・オープンキャンパス活動支援

## 4) 同窓会員への貢献: 同窓会当日に開催される同級会支援費

## 5) 理事会: 第1回…平成27年1月、第2回…5月

## 6) 役員会: 第1回…平成26年9月、第2回…12月、第3回…平成27年1月、第4回…4月

## 7) 編集会議: 第1回…平成26年11月、第2回…平成27年1月

## 8) 各回生の名簿管理について

## 9) 社会貢献

## 10) 第21回アルプス会総会について

**平成26年度予算(案)について** (5ページをご参照ください)


## 同窓会事務局よりお知らせ


**会員の住所変更等の連絡について**

変更のある方は、

- ①同封の住所変更届を下記の宛先に送付あるいはFAXしていただくか、
- ②アルプス会会員であること、卒業年度あるいは回生・学籍番号・氏名(旧姓)・新しい住所等を下記のメールアドレスまで送信していただきますようお願いいたします。

■ 信州大学医学部保健学科同窓会室

〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号

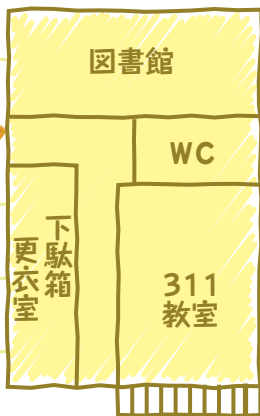
[電話&FAX] 0263-37-3510

[E-mail] mtnsopt@shinshu-u.ac.jp

# 思い出の写真

## 北校舎の今・昔

2013年の北校舎南東から



開学から1980年代前半の北校舎1階の見取図です。

以降、図書館部分は南校舎に移り、自習室と購読へ変化しました。「りんでん」の誕生です。

そして、耐震工事が終了しての今の姿です。

2階の実習室さらに明るくきれいになりました



ここに立って入口を見ると...



広くなりました



全て洋式、温水・便座付! きれいになりました



311教室は、前回の改修とあまり変わりませんが、明るくなりました



外観も白くきれいです



おしゃれなデッキ♥ここで食事をする学生もいます



地域保健推進センターへ

### 編集後記

アルプスだよりも20号になりました。今回は、記念講演会と新たに設立された地域保健推進センター関連の記事に力を入れました。また、北校舎の変遷もややあいまいな部分はありますが、載せてみました。耐震工事は、現在も中校舎で進行中です。どんな風になるか楽しみです。さて、会報編集委員は現在、次期編集委員と会報のアイデア、および懐かしい「青春の1ページ」の写真を大募集中です。会報に対するご意見・ご感想もお寄せ下さい。事務局または、[kiyokoi@shinshu-u.ac.jp](mailto:kiyokoi@shinshu-u.ac.jp)までお願いいたします。

編集委員: 伊藤喜世子(医短7回生)、尾上りえ(医短17回生)、草間恵里(医短25回生)、東田依子(医短25回生)